

# 若年人口の増加に向けた施策の追加・強化の方向性 (1 / 7)

項目	現戦略における取組	委員からの意見・ヒアリング調査での意見等	施策の追加・強化の方向性 (案)
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">政策1 魅力ある仕事をつくり、若者の定着につなげる</p>	<p><b>1 魅力のある仕事をつくる</b> <b>(1) 県内事業者の魅力向上</b> <b>①事業者の賃上げ環境の促進</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1 事業者の経営力向上 ○経営計画、事業戦略の策定・実行支援</p> <p>2 生産性の向上 (1) 1次産業におけるデジタル化等の推進 (2) 2次産業、3次産業を中心としたデジタル化の推進</p> <p>3 1次産業の法人化の推進</p> </div>	<p>【既存調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生が企業に求めることとして、「給与や賞与が高いこと」が上位に挙げられている 就職する企業に学生が希望すること 県内高校生：43.2%(2位) 県内大学生：37.4%(3位) 県外大学生：31.9%(3位)</li> </ul> <p>【ヒアリング調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>県外就職の理由は、県内企業の給与水準が低いこと。家賃も安い訳ではない</u></li> <li>● <u>県外在住男性と結婚を考えているが、県内企業の賃金が低い</u>ため、パートナーが移住に踏み切れないでいる</li> </ul>	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p>【ご議論いただきたい内容】</p> <p>「委員からの意見・ヒアリング調査での意見等」に記載の内容を踏まえて、<b>施策の追加・強化の方向性について、どのような内容が考えられるか、ご意見いただきたい</b></p> </div>
	<p><b>②女性活躍の環境づくりの推進</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1 女性の活躍の場の拡大 ○第一次産業や建設業におけるデジタル技術の活用等による女性進出の後押し</p> <p>2 女性のキャリア形成支援 ○女性の所得向上に向けたキャリア形成への支援の強化</p> <p>3 経営者層の意識改革 ○女性の登用促進等に向けた企業への啓発・情報発信の推進</p> <p>4 多様な人材が活躍できる職場環境づくりの推進 ○様々なライフステージにあっても活躍することができる職場環境の整備</p> </div>	<p>【既存調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 県内中小企業では「キャリア形成が難しいこと」、「<u>県外企業でやりがいのある仕事ができること</u>」が挙げられている 仕事面での転出理由：県内の中小企業では女性に対する期待値が低く、キャリア形成が難しいと感じている</li> </ul> <p>【ヒアリング調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 県内で希望の業界には就職したものの、<u>やりたい業務内容を</u>実現することが難しかった</li> <li>● <u>仕事での経験を積むことを考えると新卒のタイミングで高知県に戻ること</u>はない</li> </ul> <p>【委員からの意見（推進委員会・検討会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>女性がやりたいことを実現できる、新しい事にチャレンジできる、活躍できる仕組みづくりが必要</u></li> <li>● <u>男性と女性の賃金格差を埋めることが必要</u></li> <li>● <u>女性が、育児休暇取得後も仕事と育児を両立して、かつ活躍できる条件を高知県で整えることが必要</u></li> <li>● <u>企業としても、女性に向けたPR（活躍できる、私生活と仕事の両立ができる等）に力を入れることが必要</u></li> </ul>	

# 若年人口の増加に向けた施策の追加・強化の方向性 (2 / 7)

項目	現戦略における取組	委員からの意見・ヒアリング調査での意見等	施策の追加・強化の方向性 (案)
<b>政策 1</b> <b>魅力ある仕事をつくり、若者の定着につなげる</b>	<p><b>③多様な人材が定着・活躍しやすい労働環境の整備</b></p> <p>1 ワークライフバランスの推進 2 働き方改革の推進</p>	<p>【既存調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生が企業に求めることとして、「休暇が取りやすいこと」、「福利厚生制度が充実していること」が上位に挙げられている 就職する企業に学生が希望すること 県内高校生：「休暇が取りやすいこと」43.2%(2位) 県内大学生：「休暇が取りやすいこと」38.1%(1位) 県外大学生：「福利厚生制度が充実していること」42.5%(2位)</li> </ul> <p>【委員からの意見（推進委員会・検討会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>女性が、育児休暇取得後も仕事と育児を両立して、かつ活躍できる条件を高知県で整えることが必要（再掲）</u></li> <li>● <u>多様性や柔軟性を持った働き方ができないことも県外転出の要因の一つと考えられる</u></li> </ul>	
	<p><b>(2) 起業のさらなる促進</b></p> <p>1 中長期的な起業家人材の育成 2 県内全域での起業の促進 3 スケールアップを目指す起業家の発掘・成長支援</p>	<p>【委員からの意見（推進委員会・検討会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>女性がやりたいことを実現できる、新しい事にチャレンジできる、活躍できる仕組みづくりが必要（再掲）</u></li> </ul>	
	<p><b>(3) 若年層の雇用の受け皿となる企業誘致</b></p> <p>1 若者や女性から人気の高い事務系企業等を誘致 2 理系の学生の就職を促進する企業（製造業等）の誘致・立地支援 3 中山間地域に働く場を創出する企業の誘致・立地支援 4 県内企業の生産性向上につながる企業の誘致</p>	<p>【ヒアリング調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 広告業界の営業職に就きたかったが、<u>県内では高卒を対象とした求人がなかった</u></li> </ul> <p>【委員からのご意見（推進委員会・検討会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>高卒者に良質な就職先を選択肢として準備することが重要</u></li> </ul>	

# 若年人口の増加に向けた施策の追加・強化の方向性 (3 / 7)

項目	現戦略における取組	委員からの意見・ヒアリング調査での意見等	施策の追加・強化の方向性 (案)
政策 1	<p>2 新しい人の流れをつくる (1) 県内就職の促進</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1 キャリア教育 (小・中・高・大学生を対象)</p> <p>2 情報発信</p> <p>3 学生の就職活動支援</p> <p>4 企業の採用力向上・定着支援</p> </div>	<p>【ヒアリング調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>仕事での経験を積むことを考えると新卒のタイミングで高知県に戻ることはない</u> (再掲)</li> <li>● <u>広告業界の営業職に就きたかったが、県内では高卒を対象とした求人がなかった</u> (再掲)</li> <li>● <u>高知で就職した後、高知県外に転職できるイメージがわからない</u></li> <li>● <u>進学で都心にきたものの、人の多さに気疲れした。やりたい事が実現できる企業も高知県内にあり、新卒のタイミングで高知県に戻る予定</u></li> </ul> <p>【委員からのご意見 (推進委員会・検討会)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>高卒者に良質な就職先を選択肢として準備することが重要</u> (再掲)</li> </ul>	

# 若年人口の増加に向けた施策の追加・強化の方向性（4 / 7）

項目	現戦略における取組	委員からの意見・ヒアリング調査での意見等	施策の追加・強化の方向性（案）
<b>政策1</b> <b>魅力ある仕事をつくり、若者の定着につなげる</b>	<p><b>(2) 移住の促進</b></p> <p>1 新たな関心層へのアプローチの拡大                  2 きめ細かな相談体制の強化                  3 仕事と住まいの確保策や定住支援の強化</p> <p>【横断的な取組】 Uターン候補者や若者、女性へのアプローチ</p>	<p>【既存調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Uターンするために必要な条件として、男女ともに「条件に合う仕事の確保」（62.1%）が最も高い</li> </ul> <p>【ヒアリング調査】                  （Uターンしたくない理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 戻りたい意向はあるものの、<u>キャリアアップや仕事面でのスキルアップ</u>を考えると今は戻るタイミングではない</li> <li>● 県外在住男性と結婚を考えているが、<u>県内企業の賃金が低い</u>ために、パートナーが移住に踏み切れないでいる（再掲）</li> <li>● 県内には観劇や美術館などの文化施設が少なく、子どもに提供する環境としては物足りない</li> <li>● 首都圏で暮らす中で、<u>大都市への交通の便の良さ</u>に魅力を感じており、高知県に帰る思いはない</li> </ul> <p>（移住してよかった点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高知県に住んでみると、<u>アーケード街や中央公園でのイベントが充実している点</u>に満足している</li> <li>● <u>自然が豊か</u>で、仕事の前にサーフィンができる環境が気に入っているため、高知県に住み続けたい</li> </ul> <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Uターン相談窓口の相談員が希望する業種（IT系）に関する知見が少なく、知りたいこと（キャリアパスや各企業の専門領域など）に対して明確な回答を得られなかった</li> </ul> <p>【委員からの意見（推進委員会・検討会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 移住検討者から相対的な評価で選ばれないといけないため、<u>高知県と競合する他県と比較して、違いを分析することが必要</u></li> <li>● <u>移住者毎にカスタマイズして高知県の魅力を伝えることが必要</u></li> <li>● <u>海外との交流を通じて、海外の人にもPRできるグローバルなネタがあると海外からの呼び込みにつながるのではない</u></li> </ul>	

# 若年人口の増加に向けた施策の追加・強化の方向性（5 / 7）

項目	現戦略における取組	委員からの意見・ヒアリング調査での意見等	施策の追加・強化の方向性（案）
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">政策2 結婚の希望をかなえる</p>	<p><b>出会いや結婚を後押しする</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1 出会いの機会の創出</p> <p>（1）多様な交流機会の創出</p> <p>（2）こうち出会いサポートセンターの強化</p> <p>2 結婚支援の推進</p> <p>（1）民間の結婚相談所との連携強化</p> <p>（2）結婚を後押しする経済的な支援</p> </div>	<p>【既存調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 若年層が結婚しない理由として、18～24歳では「今は仕事（学業）に打ち込みたい」ことが挙げられ、25～34歳では「適当な相手にまだめぐり会わないこと」を挙げる人が最も多い</li> </ul> <p>県内の若年層（18～39歳）が結婚していない理由</p> <p>18～24歳：「今は仕事（学業）に打ち込みたい」（38.1%）</p> <p>25～29歳：「適当な相手にまだめぐり会わないから」（44.3%）</p> <p>30～34歳：「適当な相手にまだめぐり会わないから」（51.0%）</p> <p>【ヒアリング調査】</p> <p>（結婚に対する思い）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 結婚はできればしたいが、<u>絶対にしたいという強い思いはない</u></li> <li>● 結婚はしたいと思わない。<u>出産まで考えたときに、金銭面や時間面で、自分の趣味や仕事に制約がかかることに懸念がある</u>（出会いに対する不安）</li> <li>● 県内は若年層が少なく<u>理想とする年収や学歴の相手と出会う機会が少ない</u></li> <li>● 独身で高知県に戻ると<u>県内で結婚相手に出会えるのかの不安がある</u></li> <li>● 職場内での結婚は望まないため、その他での<u>出会いの機会は少ない</u></li> </ul> <p>【委員からの意見（推進委員会・検討会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高知の若者は結婚したいという意向はあるが、<u>出会いの場がない</u>という意見がある</li> <li>● 婚活イベントのような1回だけの出会いではなく、<u>継続して交流できる場所が必要</u></li> <li>● 婚姻数を増やす取組は、高知県の中だけでなく、<u>大都市圏の自治体とも連携しながら進めると良い</u></li> </ul>	

# 若年人口の増加に向けた施策の追加・強化の方向性（6 / 7）

項目	現戦略における取組	委員からの意見・ヒアリング調査での意見等	施策の追加・強化の方向性（案）
<b>政策3</b> <b>子どもを生み、育てたい希望をかなえる</b>	<p><b>安心して妊娠・出産・子育てできる体制づくり</b></p> <p>1 理想の出生数を叶える施策の推進</p> <p>(1) 妊娠・出産の希望を叶える施策の推進</p> <p>(2) 産後ケアを「誰でも受けやすく」する施策の推進</p> <p>(3) 多子世帯への支援の充実</p> <p>2 住民参加型の子育てしやすい地域づくり</p> <p>(1) 安心して子育てできる体制づくりの推進</p> <p>(2) 住民参加型の子育て支援の拡充</p>	<p>【既存調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 県内の若年層の90%以上が子どもを持ちたいと考えており、理想の子供数は「2人」が最も多い。理想の子ども数を持ってない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎる」（78.5%）「仕事と家庭の両立が難しい」（44.0%）が多い</li> <li>● 子育て支援については、18歳～24歳では「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」、それ以外の年代では「子育ての負担を軽減する家事支援」が高いニーズがある</li> </ul> <p>県内の若年層（18～39歳）が結婚していない理由</p> <p>18～24歳：「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」（57.1%）</p> <p>25～29歳：「子育ての負担を軽減する家事支援」（45.6%）</p> <p>30～34歳：「子育ての負担を軽減する家事支援」（52.9%）</p> <p>【ヒアリング調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SNSで「子育て辛い」といった投稿を見かけることも多く<u>子育てに対する不安が増している</u></li> <li>● 結婚や子育てに対して、例えば「親はこうあるべきだ」といった社会から求められる「責任」が大きい<u>ため不安がある</u></li> </ul> <p>【委員からの意見（推進委員会・検討会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>子育て費用の社会負担を高知県レベルでも取り組んでいくべき</u></li> <li>● <u>結婚や出産した後に手厚いサポートがあることをPRすることが重要</u></li> </ul>	

# 若年人口の増加に向けた施策の追加・強化の方向性（7 / 7）

項目	現戦略における取組	委員からの意見・ヒアリング調査での意見等	施策の追加・強化の方向性（案）
<b>条件整備1</b> <b>固定的な性別役割分担意識の解消</b>	<p>「男性が育児休業を取得するのが当たり前の高知」の実現に向けた重層的な取組をオール高知で推進</p> <p>1 行政・企業等のトップから始める！                  2 県による「隗より始める」の取り組みの推進                  3 地域社会の意識改革に向けた取り組みの推進                  4 職場の意識改革に向けた取り組みの推進                  5 県民運動を推進する情報発信・啓発</p> <p>＜現時点での事業案＞</p> <p>県民運動としての意識改革の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 中高年層、県内企業経営者や管理職等の意思決定層の意識改革の推進（取組内容）                         <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「共働き・共育て」推進の共同宣言</li> <li>② テレビCMの放送、YouTube等での広告配信</li> <li>③ SNS等を活用した発信</li> </ul> </li> </ul>	<p>【既存調査結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常生活や職場での様々な場面で、女性は男性よりも性別による役割意識を感じている人が多い                          生活の各場面で性別による役割意識を感じたか                          男女差：「職場で来客にお茶を出す」（19.5ポイント）                          「親戚や地域の宴会で食事の支度やお酌をする」（12.7ポイント）                          「職場で社員の食器類の片付けをする」（10.1ポイント）</li> </ul> <p>【ヒアリング調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 婚活の際に、多くの男性が「料理が得意な女性としか結婚を考えていない」という意見を持っていた。高知県はまだ「料理とか家事は女がするもの」という考えを持つ人がいるということを感じた</li> </ul> <p>【委員からの意見（推進委員会・検討会）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性の活躍と男性の活躍は表裏一体で、誰もが活躍できる社会づくりに向けて<u>男性の意識改革が重要</u></li> <li>● 男性の育児休業の取得率を上げていくことは大事だが、まずは、「家のことは女性がやるもの」という意識をあらゆる組織のトップから変えていくことが必要</li> <li>● 若者の実態として、「女性側しか家事をしないため困っている。」という声も聞こえてくるので、そうした意識の改革が必要</li> <li>● 女性が、<u>育児休暇取得後も仕事と育児を両立して、かつ活躍できる条件を高知県で整えることが必要（再掲）</u></li> </ul>	